

## 胃がん検診の流れ

### 1. 受診場所・受診日を選ぶ

同封の一覧表をご覧ください。

### 2. 電話でお申し込みください

TEL 000-0000-0000

### 3. 受診

自己負担金0,000円を支払い受診してください。

- 受診内容
  - ・ 問診
  - ・ 胃内視鏡による検査

### 4. 結果\*

約2～3週間後に自宅に郵送されます。  
検査結果を確認してください。

■ 受診期間：令和〇〇年〇〇月〇〇日～  
令和〇〇年〇〇月〇日まで

※ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

第2.0版

早期の胃がんは、  
ご自分ではまず気づきません。  
見つけれられるのは、  
専門家だけです。

早期の胃がんは、自覚症状がないのが普通です。  
あったとしても、胸やけ、吐き気、食欲不振など、  
「今日はちょっと調子が悪いな」  
と思うような軽いものです。  
「異常を感じたら検診に行こう」では、  
手遅れになる場合があります。

早期発見するためには  
専門家による検診を2年に1度  
定期的に受けることが大切です。



SAMPLE

胃がん検診  
2年に1度、  
気になる症状がなくても、  
が必要ですよ。

SAMPLE

〇〇市からの  
0,000円の助成があるため  
自己負担0,000円で  
受けられます。

お問い合わせ先

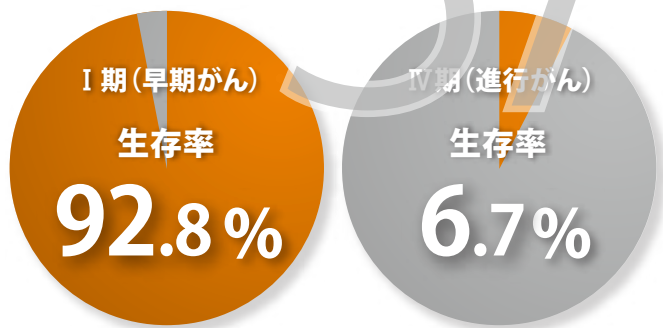
〇〇市〇〇部〇〇課

〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号

電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇

胃がんはわが国では  
50歳代以降に罹患する人が多く  
がんによる死亡原因の  
上位に位置するがんです。<sup>※1</sup>

胃がんはなりやすいがんですが、  
治しやすいがんでもあります。  
早期のがん<sup>※2</sup>の段階で治療すれば、  
90%以上が治ります。<sup>※3</sup>



※1 胃は、がん罹患した人が3番目に多い部位です。(2020年男女計)  
出典：国立がん研究センター がん情報サービス「最新がん統計」(全国がん登録)  
※2 ここでいう「早期」とは、がんの進行度を0～IV期に区分した病期分類(TNM分類)におけるI期を意味します。(IV期に近いほどがんが進行している状態です)  
※3 ここでいう「治る」とは、診断時から5年後に生存している状態を示します。  
出典：2014-2015年院内がん登録5年生存率報告におけるネット・サバイバル(純生存率)

胃がん検診は、  
胃内視鏡による検査です。  
検査自体は  
10分程度で終わります。



先端にカメラのついた細い柔軟なチューブを口から体内に挿入し、胃内部を観察する検査です。  
(経鼻内視鏡検査を選ぶ場合があります。詳しくは医療機関へお問い合わせください。)

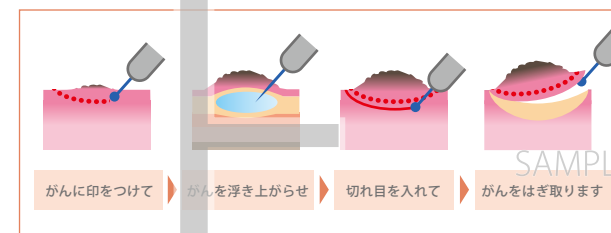
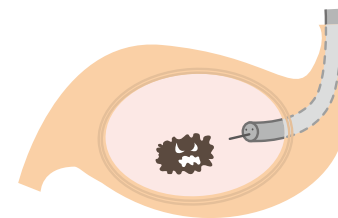
検診で  
「要精密検査」となった場合は  
その後必ず、精密検査を  
受けてください。

精密検査は生検(組織の一部を採取して調べる)  
または、胃内視鏡検査の再検査です。<sup>※3</sup>

※3 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。

胃内視鏡検査については、裏面のお問い合わせ先におたずねください。

精密検査で  
胃がんが見つかったら、  
早期なら、胃を取らずに  
がん細胞だけはぎ取れます。



術後の生活も  
今までと変わりません。



出典：国立がん研究センター がん情報サービス  
このリーフレットは、がん検診受診率向上<希望の虹プロジェクト>が作成しました。